

portfolio
2022

建築作品集

東京デザイナー学院

笹川 龍之介

PROFILE

笹川 龍之介

ryuunosuke sasagawa

2001年 10月23日 東京都東村山市にて誕生。天秤座のA型
幼少期から工作や作画といったモノづくりを好み帆船の工作を得意とした。
その影響により大工の職業を目指すようになった。

地元の中を卒業後、世田谷区総合工科高校建築科に入学。
製図や建築模型を作成し建築の基礎を学習しその過程で大工から設計士の
夢を目指すようになった。

高校卒業後、いつか歴史に名を残すような建造物を自分でデザインし設計したい。
という理由から東京デザイナー学院に入学した。



CONTENTS

No.3	究極の癒し空間・コンセプト
No.4	敷地情報・ダイアグラム
No.5	1F平面図
No.6	2F平面図
No.7	1.2F模型写真
No.9	ヴィラ風の家・コンセプト
No.10	敷地情報・ダイアグラム
No.11	1F平面図
No.12	2F平面図
No.13	3F平面図
No.14	1.2.3F模型写真

究極の癒し空間

『今回のテーマ』

[主な条件]

祖父母の住宅をメインにリノベーションの計画を行うこと 必要に応じて、増築・減築の計画を行っても良い。
この建物を中心に、地域の人に開かれた図書館施設+αの機能をもった「セカンドルーム」を提案して欲しい

[構造システム]

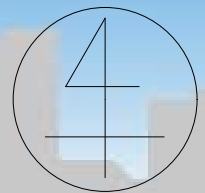
原則木造 家族構成：父母（60代）が居住 娘夫婦（30代）、娘（20代）が短期・長期滞在することがある。

『コンセプト』

リフォーム前からある木々と土地の広さに着目し、子供達が身近に自然を感じ本を通して色々な知識や世界を知る。そんな構想で図書館と児童館の組み合わせをした。都会から離れたこの土地で癒し空間を実現させるために、裏庭の木々を京都で感じられるような美しい庭園風に剪定し古民家と掛け合わせた。また、元々南向きにしかなかった縁側を半周させることで図書館への出入りのしやすさや裏庭の景色が視界に入るよう工夫した。

それぞれ表面と裏面の違いが生まれることで二面性を持ったそんな究極の癒し空間を実現した。

『敷地情報』



住所：三重県松阪市嬉野中川町1031付近

敷地面積：1,050㎡ 既存建物面積：1F_125㎡ 2F_50㎡

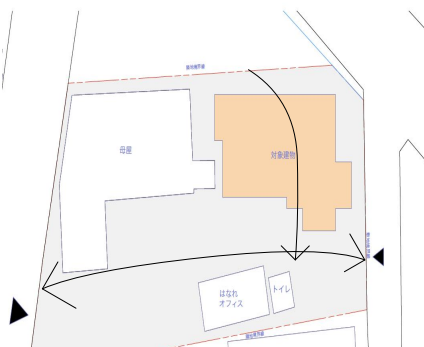
周辺には最寄駅の伊勢中川駅や（徒歩6分）松阪市役所や中川公民館、コンビニやスーパーと言った多様な施設があり暮らしやすいと言える。また徒歩1分の場所に中川小学校があり、放課後に子供達が遊んだり宿題をやりにくるには最適な場所である。

西側には中村川が流れており、涼しい空気や水の音を身直に感じられる。敷地の裏庭には、多くの木々が生えている。出入口は二つあり土地面積も十分にある。

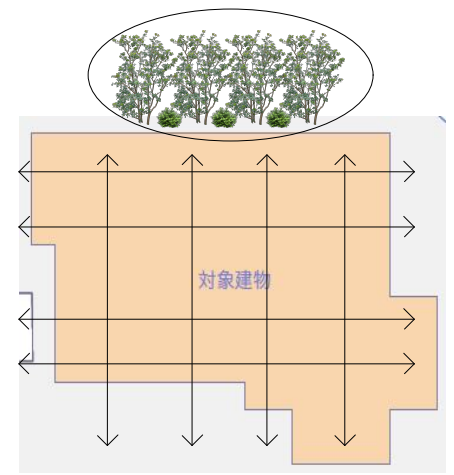
『ダイアグラム』



(人流)

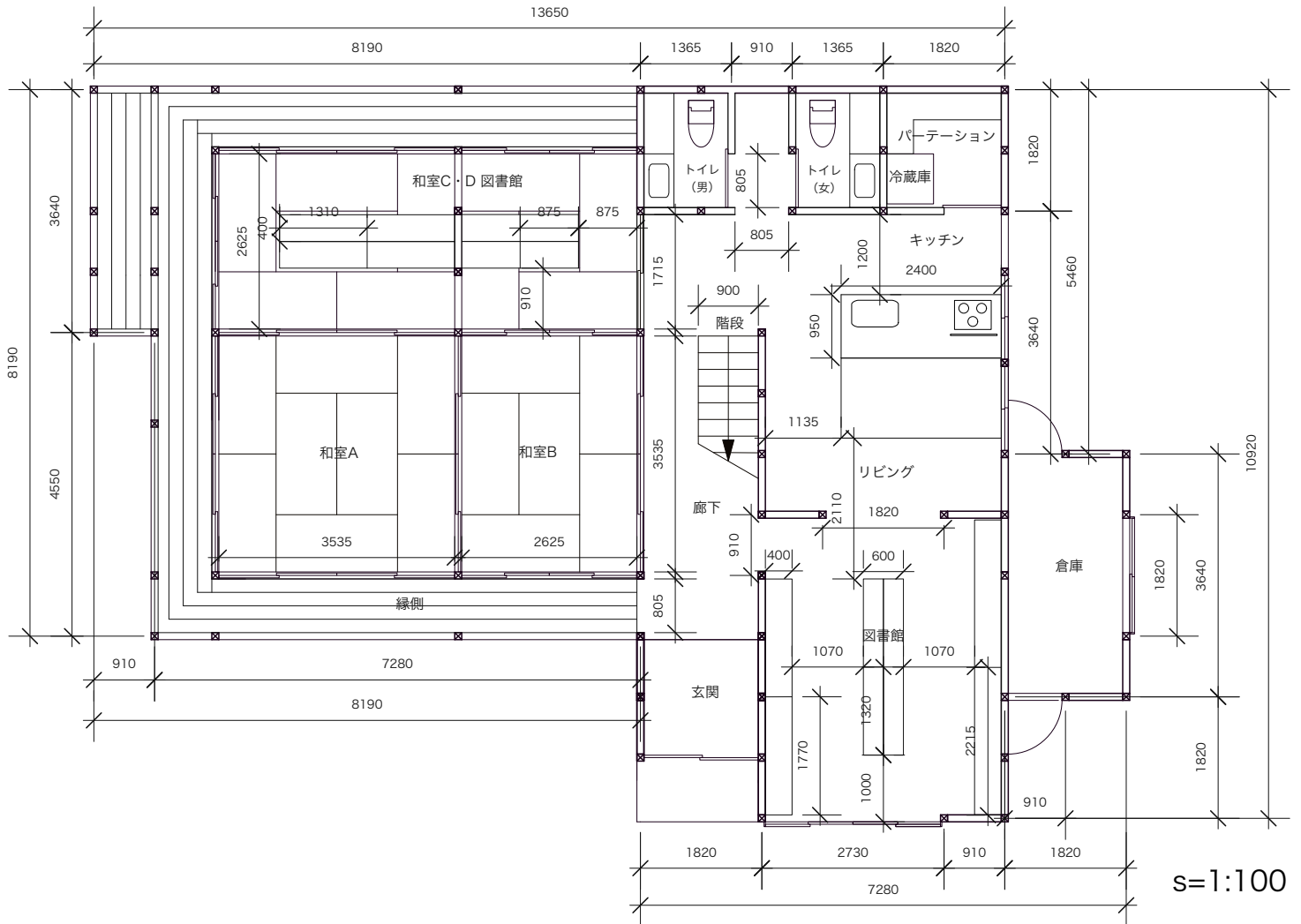


(空気や自然の流れ)



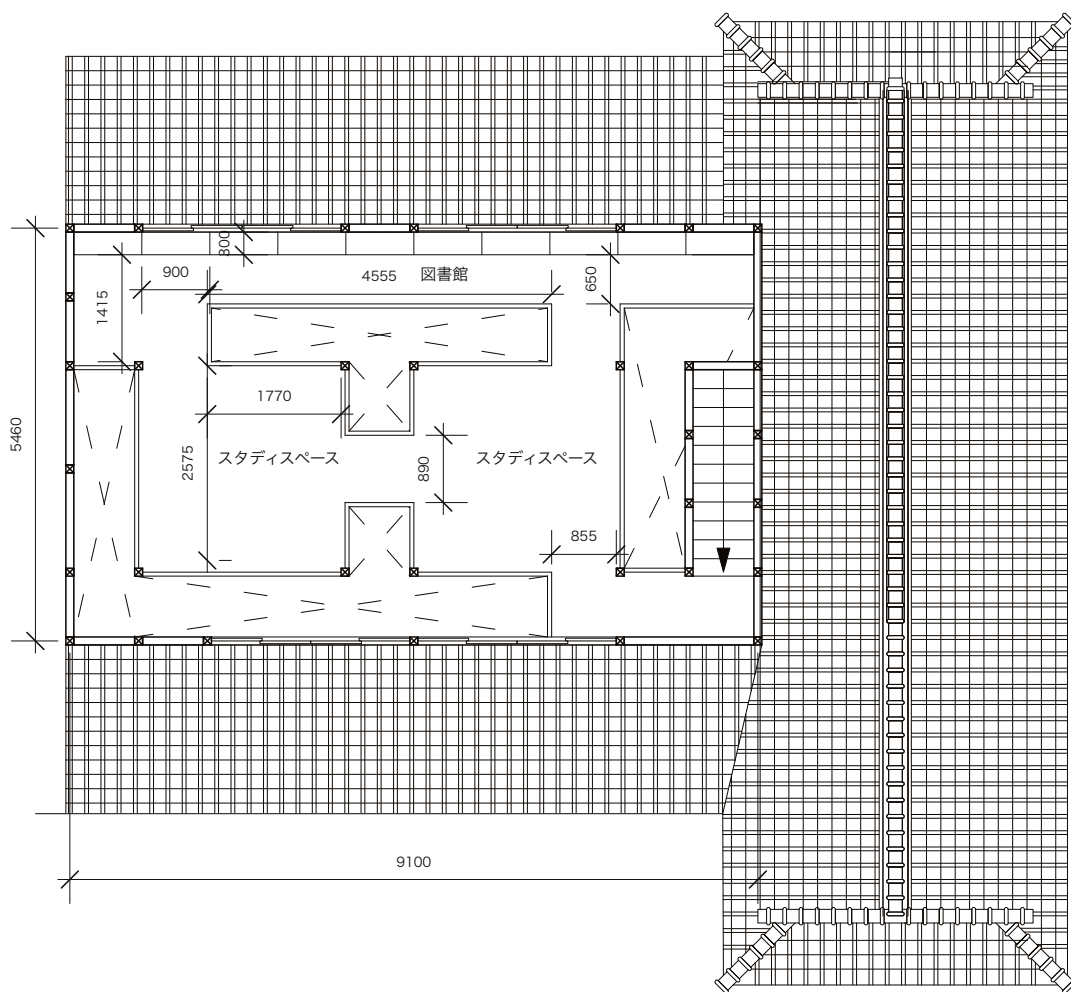
(人流) × (空気や自然の流れ)

『1F平面図』



和室以外の扉を無くす事で児童同士の接触を避けられリビングに一体感が生まれる。
 また、トイレを別々に設置する事で児童たちが気軽に用を足せる点を意識した。
 他にもキッチンにパーティーションを設けて、生活感を消す事で『図書館・児童館』の存在を大きく見せる工夫をした。倉庫には、児童達の遊び道具などを収納する。
 和室A.Bと和室C.Dを二つに区切る事で、勉強と遊びの二面性を持たせた。あと、どこの場所においても出入りできるのもポイントである。

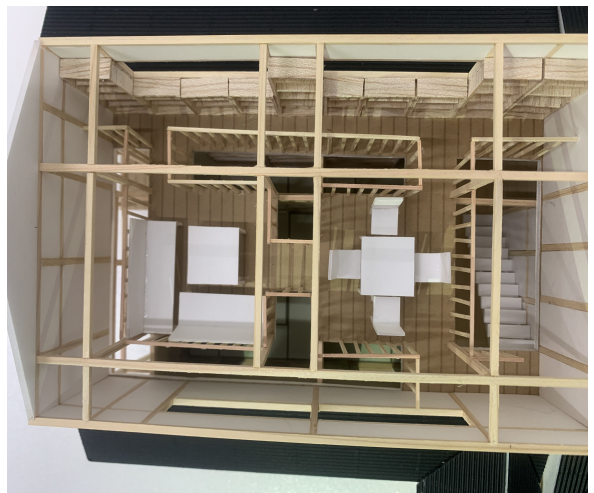
『2F平面図』



s=1:100

二階はリノベーション前から使われていなかったため子供遊びの要素を取り入れた秘密基地のような吹き抜けと図書館を設けた。一階にはなかったスタディスペースを設置し、遊び感覚で本と触れ合う場を設計した。回路できるのもポイントである。また二階の窓からは、裏にはの景色を本と堪能できたり、外で遊ぶ児童を見守ることもできます。

『1.2F模型写真』



ヴィラ風の家

『今回のテーマ』

[主な条件]

建築面積：50m²以内とする

延べ床面積：150m²以内とする(本課題では容積率300%とする)

構造システム：自由 階数：法規の限度内で自由

現代的な家族の生活を想像しながら都市の住宅を設計してください。周辺環境も考慮しながら、住宅としての機能や空間的な魅力、家族構成の変化に対応できるプランなど、オリジナルの住宅を自由に提案してください。「都市の狭小住宅」対象の敷地は千代田区の水道橋駅近くです。

[構造システム]

家族構成：父母小学生の子供二人が居住

『コンセプト』

都会では味わえ無いような非日常を毎日感じられる、そんなアメリカの西海岸風のリゾート地を感じさせる要素を盛りこんだ住まいをイメージした。ヴィラのような雰囲気を感じさせるには、光が室内に届き解放感得られる事がポイントとなる。家の階段を3階まで上一直線に吹き抜けにし太陽光が差し、空の景色を見渡せる。デザインに仕上げた。また、前面道路一面をガラス張りにし神田川から一望できる都会の美しい景色を眺められる事で、別荘にいるかのような非日常と開放感を感じることが出来る。リビングとテラス兼廊下が繋がるこちらの住まい。扉一枚で内と外が繋がられたり、プライベートスペースにチェンジできる。これら要素を取り入れアメリカ西海岸のリゾートのようなコーディネートに仕上げています。

『敷地情報』



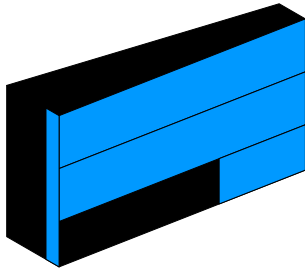
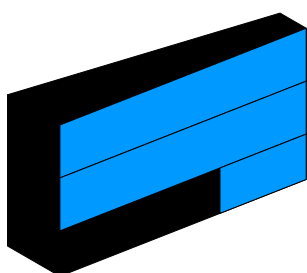
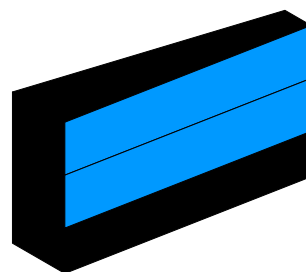
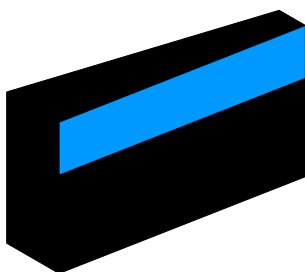
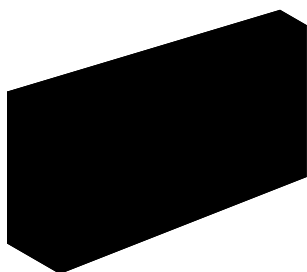
住所：〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2丁目8

敷地面積：67m² 用途地域：商業地域 建ぺい率：80%

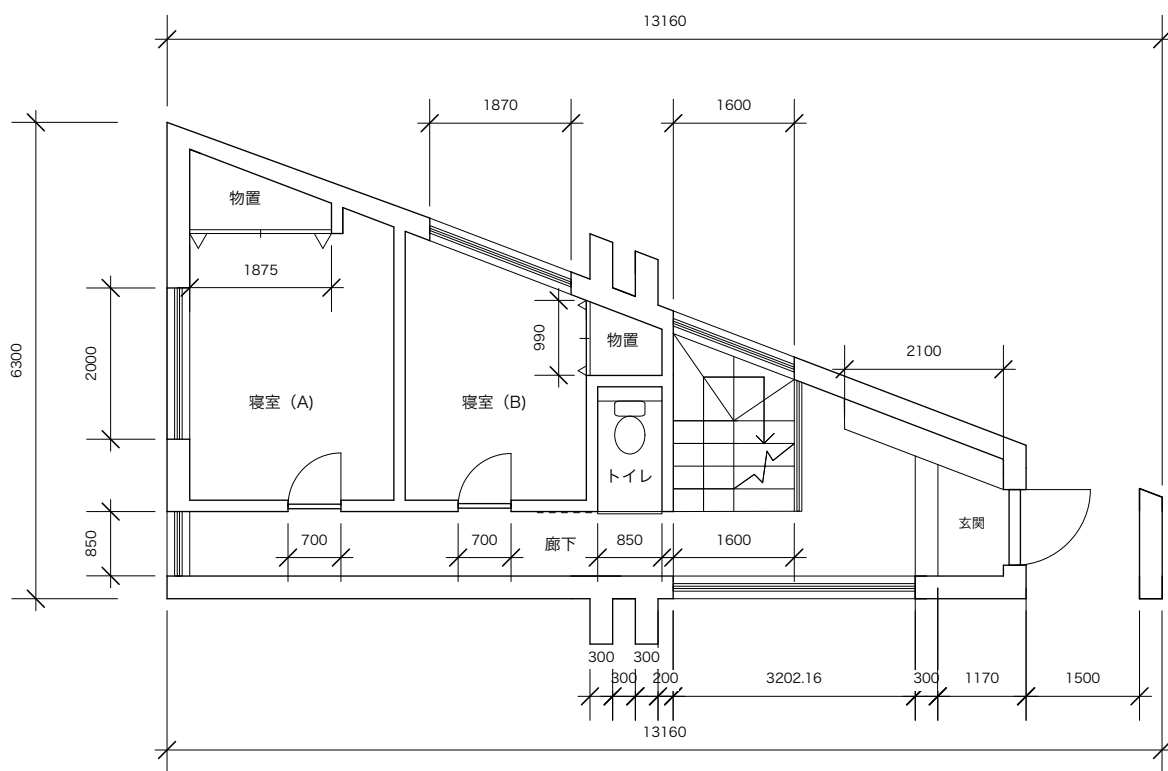
容積率：500% 防火指定：防火地域

敷地は狭く、横に長いのが特徴。後ろのマンションとの幅が近い。前面道路には、車2台が行き来できる広さがあり、昼間の交通量はやや多い。さらに向こう側には総武線と神田川が流れている。そのため、騒音が迷惑なので改善する必要がある。大きなビルが多く建ち並ぶこの土地周辺では、一戸建ての家は存在感が薄れてしまう可能性がある。都会だけあって周辺には、徒歩1分圏内にJR水道橋駅や都営三田線が開通していて、コンビニや飲食店、東京ドームシティといった遊園地がある。

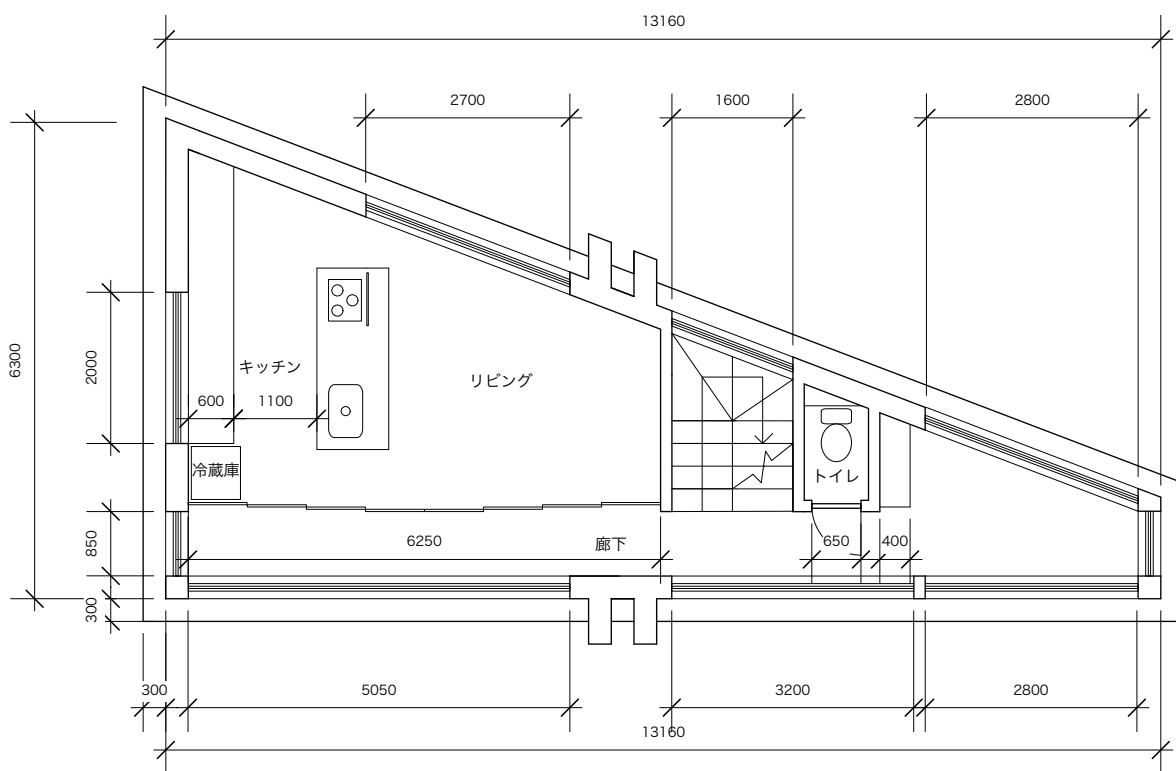
『ダイアグラム』



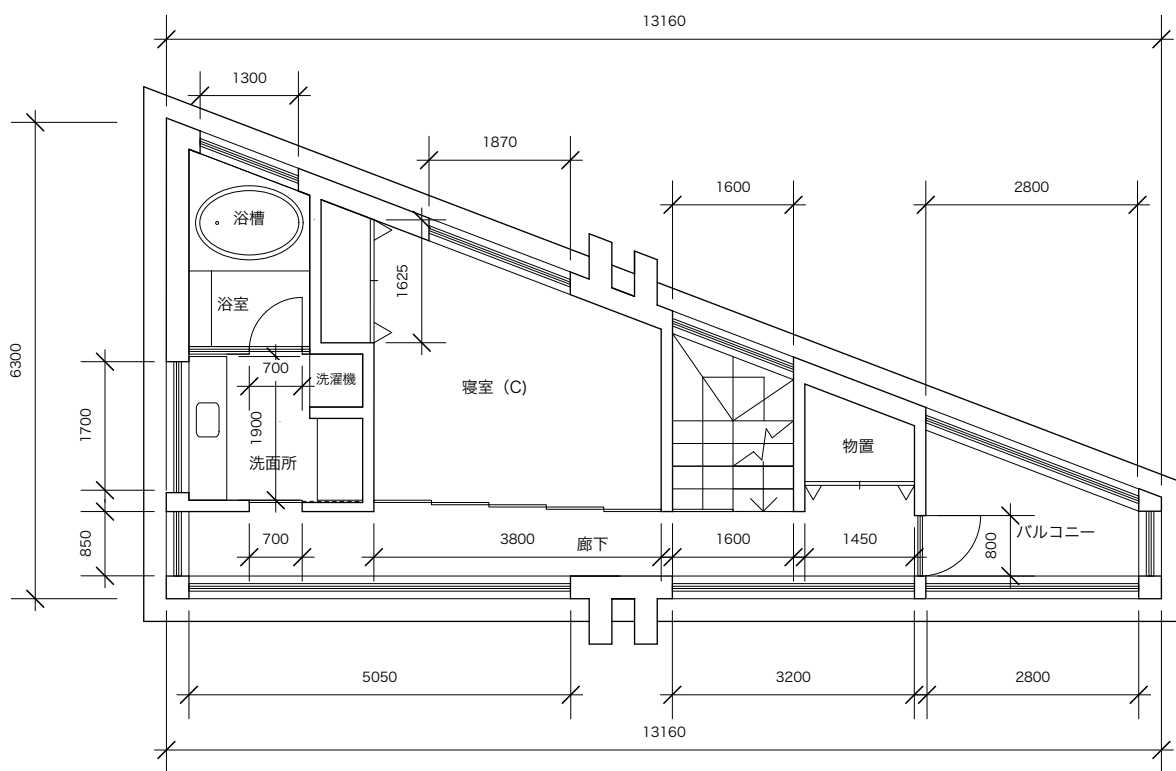
『1F平面図』



『2F平面図』



『3F平面図』



『1.2.3F模型写真』

